



「難病児を支える施設を対  
象とした体験型研修」  
事業報告書

一般社団法人 幹らんど  
令和6年度事業

## ・事業内容

本年度事業は「難病児を支える施設を対象とした体験型研修」をテーマとしており、

1. 体験型研修の実施
2. 難病児支援に関する研修の実施
3. 実践発表会の実施

の3つの事業から主に構成されるものである。

## ・目的

本事業は、

1. 難病児とその家族の地域での暮らしを支えるため、母子分離型で利用できる児童発達支援の普及
2. 継続的な顔の見える関係を構築し、地域格差なく支援がなされること  
の実現を目的とし行ったものである。

・事業ごとの目標及びその達成率

	目標	達成
1.体験型研修の実施		
実施回数	5回	7回
参加者数	各回2名	回平均1.7名
参加者満足度	80%以上	100%
2.難病児支援に関する研修の実施		
実施回数	10回	10回
参加者数	各回30名以上	回平均36.1名(オンライン含む)
3.実践発表会の実施		
参加者数	50名以上	40名

# ・事業内容及び結果考察

## 1.体験型研修の実施

主に難病児支援に関わる、あるいはその予定の団体職員に対し、当法人が実践する小児在宅ケア、及び母子分離型の児童発達支援について、講義と実践、体験を交えた研修を実施した。

日程調整など難航した部分もあったものの、実施回数や人数といった目標はおおむね達成でき、またアンケートによる満足度調査では参加者全員から最高評価をいただいた。その他の「参考になった」等の項目でも高い評価をいただき、実りある研修にできたのではないかと考えている。



実際に当法人の利用者と接する参加者

## 2.難病児支援に関する研修の実施

事業1に加えてさらに難病児支援への理解を深めていただくため、当法人に関係のある医師、心理士、保育士等様々な立場の方を講師として計10回の研修会を開催した。ZOOMでのオンライン参加も含め、様々な職種や立場から想定を超える多くの方々にご参加いただきました。



会場の様子

第1回 難病児支援に関する研修会  
医師、心理士、保育士、教育、福祉関係者、医療関係者

### 小児難聴の診断治療と 難聴児支援体制について

- ・小児難聴の成因
- ・補聴器と人工内耳についてとその違い
- ・新生児聴覚スクリーニングや幼小児の聴力検査と診断
- ・難聴児支援に対する医療・教育・行政の連携についての現在の取り組み

上記の内容についてお話いたします

講師 酒井章博 / さかい耳鼻咽喉科クリニック院長

略歴  
平成9年 和歌山県立医科大学医学部 卒業  
平成15年 和歌山県立医科大学 大学院 卒業  
平成15年～18年 和歌山県立総合医療センター 勤務  
平成18年～23年 和歌山県立病院 勤務  
平成18年～現在 和歌山県立医科大学 小児難聴担当の医師  
平成23年～25年 公立和歌山病院 勤務  
平成25年～ さかい耳鼻咽喉科クリニック 院長  
医学博士取得

開催日 2024年5月18日(土) 15:00～

会場 幹らんど  
〒640-0332 和歌山市冬野703-9  
TEL073-479-5785

定員 会場 30名 お申込み先着順 **参加無料**  
Zoomによるオンライン参加でもご参加いただけます

お申込み 一般社団法人幹らんど  
mikiland@miki-land.comまでメールをお願いたします  
お名前・職種・会場orオンラインを記入ください

 

第1回研修のポスター



### 3.実践発表会の実施

3月の日曜日、事業1、2の集大成として、実際に難病児支援に関わる当法人職員や研修参加者らが研修で学んだことを実践し関わり方を発表する会を開催した。

スケジュールの遅れなどの要因により研修参加者や関係者への告知・招待が遅くなったこともあり、参加人数は当初の目標に及ばなかった。

各発表者はそれぞれ関係団体の職員であったり障害を抱える子の保護者であったり、様々な視点から発表を行っていた。発表終了後には会場及びオンライン参加者から感想や質問が寄せられ、関係者には実りある発表会になったと考えられる。



- 画像:左上から時計回りに  
1:実際の手遊びを実践する発表者  
2:発表後の感想を述べる参加者  
3:スライドで発表を行う発表者



## • 評価及び課題

### • 評価点

一部達成できなかった部分もあるものの、おおむね当初の想定通りに一連の事業を実施できたのではないかと考えている。体験型研修の参加者満足度や難病児支援に関する研修の参加者数など、想定以上に良い反響をいただけたのは各研修内容の充実によるものと考えられ、これからも継続に努めたいと考えている。

### • 課題

一方、今回の事業の総仕上げとなる実践発表会について、スケジュール都合等により研修参加者への告知や招待が遅れてしまい、それが参加者数が想定を下回った原因の1つになったと考えられた。研修においても積極的にご参加いただいた方々が多かっただけに、早めに案内ができていれば予定を超える参加が得られたかもしれない。反省点とし、次回に活かしたい。

## ・今後の展望

体験型研修事業について、当法人の試みが評価され、次年度より和歌山県の公的な事業として実施・継続されることが決定した。アンケート結果に見られたような高い満足度を維持できるよう、そして施設や地域の垣根を超えて難病児支援の輪を広げられるよう、これからも取り組んでいく。

また、研修会についても、同じくアンケートに見られるように当法人職員や参加者にとって有意義な時間となるものであるため、今後も頻度こそ縮小するものの継続していきたいと考えている。

最後に実践発表会についても、職員が現場で感じたことや取り組んでいることを他職員や外部に知ってもらいたい機会であると考えており、期間は空くものの再びの実施を検討している。